

白色のセルに数値・内容を入力してください。色付きのセルには触らないでください。

【小海町北相木村南相木村中学校組合】

1人1台端末の利活用に係る計画

2025年6月

項目	内容	※留意事項
<p>①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿</p>	<p>一人一台端末を導入するICT環境は、教育の質を向上させるための重要な要素で、学びのスタイルを革新し、より効果的で魅力的な教育を実現するための基盤となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別学習の促進：各児童が自分のペースで学習できるため、理解度や興味に応じたカスタマイズされた学びを目差す。 ○協働学習の強化：端末を通じて、グループでのプロジェクトやディスカッションが容易になり、コミュニケーション能力やチームワークが育まれることを目指す。 ○情報リテラシーの向上：インターネットを活用することで、情報の収集・分析・活用能力が養われことによる、批判的思考の促進。 ○多様な学習資源へのアクセス：教材や学習アプリ、オンラインコースなど、多様なリソースにアクセスできるため、学びの幅を広げていく。 ○リアルタイムのフィードバック：教師は生徒の進捗をリアルタイムで把握できるようになるため、適切なサポートを提供する。 ○自己管理能力の向上：児童は自分の学習を自己管理するスキルを身につけ、主体的な学びを促進。 	<p>・学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)等の内容並びにこれらに引き続き政府の議論も踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿を記載する。</p>
<p>②GIGA第1期の総括</p>	<p>第1期は、基盤の整備や初期導入が中心でしたが、デジタル教育環境が大きく向上し、学習の質や効率が改善される兆しが見られました。しかし、教員や児童のデジタルリテラシーのギャップがあること、端末の持ち帰りの少なさなど、課題も見えてきました。第1期で得た教訓をもとに、デジタルリテラシーを解消するための支援強化や、教育者へのさらなるスキル向上のための研修を実施していきたい。</p>	<p>・①も念頭に、令和5年度までの間にGIGAスクール構想の実現に向けて実施してきた端末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明かになった課題については、その解決策とともに記載する。</p>
<p>③1人1台端末の利活用方策</p>	<p>【1人1台端末の活用】 一人一台端末の最大の利点は、学びの個別化を実現できる点です。端末を使うことで、児童一人ひとりのペースや理解度に合わせた学習が可能になります。理解度に応じて問題の難易度が変わるシステムの導入など誰もが自分のペースで学べる環境を整備していきます。また、非常時における児童生徒の学びの保障の観点からも、端末を持ち帰り、自宅等での学習においてもICTを利活用することを推進します。</p> <p>【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 児童一人ひとりの学習スタイルやペース、興味・関心に合わせて、最も効果的な学びを提供するし、ICTを活用することで、学習内容を個別のニーズに対応していくとともに、デジタルツールを使ったグループワークや意見交換の場を提供することにより、児童同士が互いに学び合い、知識を深め、社会性やチームワーク、問題解決能力を育成します。</p> <p>【学びの保障（臨時休業等の緊急時・不登校対策・特別支援教育・外国人児童生徒）】 家庭の違いに関わらず、インターネットを介して教育コンテンツにアクセスできるため、どこに住んでいて学びを提供することができ、物理的に学校に通えない状況でも、遠隔授業を通じて学びの機会を保障することができます。経済的に困難な家庭への支援や、学習支援が必要な児童へには、学校、地域、家庭、教育委員会が協力し合い、子どもの学びを支える体制を整えることが重要です。また、教師自身がICTツールを効果的に活用できるよう、継続的な研修やサポートを検討していきます。</p>	<p>・①及び②を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。その際、1人1台端末の活用、個別最適・協働的な学びの一体的な充実、学びの保障の視点に触れて方策を記入する。端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを明記する。</p>